

平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年 4月 5日
研究・研修課題名	心臓リハビリテーション指導士資格取得のための研修補助
研究・研修組織名(所属)	島根大学医学部附属病院リハビリテーション部
研究・研修責任者名(所属)	山崎 竜司(リハビリテーション部)
共同研究・研修実施者名(所属)	佐藤 慎也(リハビリテーション部)

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得、 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	山崎 竜司(リハビリテーション部) 佐藤 慎也(リハビリテーション部)
学会名(会期・場所、認定名等)	心臓リハビリテーション指導士
演題名・認証交付先等	心臓リハビリテーション指導士認定制度委員会
取得日・認定期間等	

目的及び方法、成果の内容

①目的

心臓リハビリテーション(以下:心リハ)指導士とは、包括的心リハを通じて循環器疾患の治療ならびに再発予防とQOL向上に貢献している。現在、本院理学療法士5名が心リハ指導士を取得し、心リハを提供している。

H30年の診療報酬改定においてもICUにおける「早期離床・リハビリテーション加算」が追加されることが明記されており、収益の観点からもICUにて理学療法士が早期から循環器疾患患者の介入を開始することが収益の増加につながることも推測される。また、退院後の外来心リハへの移行など規模拡大により心リハ指導士の増員により増収が見込める。さらに、今後増加することが予想される心不全患者に対するリハビリテーションにおいても、医師や看護師を含めた医療チームの一員として関わり、かつそのレベルの向上を図る必要性がある。

これらのことより、今後は心大血管リハビリ料を算定する患者数の増加に伴い、心リハ指導士の増員が必要となっている。この申請は心リハ指導士の資格取得を目的とする。

②方法

本院リハビリテーション部に所属する理学療法士2名が、当院にてレポートを10症例作成し、4月に願書とレポートを提出し委員会での添削の結果、6月頃に受験資格を得る。試験は日本心リハ学会学術集会に合わせて7月15、16日に講習会があり、講習受講単位を取得する。同日、7月16日に認定試験を受験し、合格することにより資格を取得する。以下に資格取得までの概略を示す。

～心臓リハビリテーション指導士の取得要件～

- 本委員会主催の講習会を当該年度に受講していること。
- 医師、看護師、理学療法士、臨床検査技師、管理栄養士、薬剤師、臨床工学技士、臨床心理士、作業療法士、あるいは健康運動指導士のいずれかの資格を有していること。
- 申請時に本学会会員であること(申請時の直近2年以上継続して会員であることが必要)。
- 心臓リハビリテーション指導の実地経験が1年以上あること、または心臓リハビリテーション研修制度により受験資格認定証の交付を受けていること。

- 2日間の講習を受講すること。以下に、講義内容を示す。

総論(運動生理学、心臓病学)
運動処方(急性期と心臓病、回復期・維持期)
救急処置と安全管理

運動負荷試験実習
栄養学
臨床心理学総論
病態生理、診断治療

■認定試験に合格すること

③成 果

(成果)

パシフィコ横浜にて、山崎、佐藤が、平成30年7月15、16日に開催された講習会に参加し、7月16日の認定試験を受験した。

講義科目	時間 (分)
総論 (運動生理学、心臓病学)	60
運動処方 (急性期と心臓病、回復期・維持期)	80
救急処置と安全管理	40
運動負荷試験実習	70
栄養学	40
臨床心理学総論	40
病態生理、診断治療	60

平成30年9月、山崎、佐藤が認定証を受領 (合格し資格取得) した。

(成果詳細)

パシフィコ横浜での2日間の講習会において、心リハの基礎となる分野について学習した。期日に応じた運動処方、運動負荷試験実習などは、特に患者に応じた適切な運動処方を実施し、その後の有酸素運動をはじめとした心リハを安全に実施するために必要な内容があった。包括的に患者をサポートしていくための新たに知り得た知識や技術もあり、理学療法士としての知識を更新することができた。心リハに関する内容は幅広いため、それぞれの職種が協力し医療チームで携わることの効率性や重要性、必要性を強く感じた。

平成30年7月16日の筆記試験では、マークシートによる選択式で試験が実施された。運動生理学に関連する基礎や解剖、疾患概念、病態、食事・運動・禁煙指導の実際、心理的介入法など、幅広い範囲から出題されていた。筆記試験では山崎、佐藤2名が合格し、心リハ指導士として登録された。全国での合格率は60.7%であった。

今回、2名が心リハ指導士の試験に合格することができた。近年、再灌流療法や心臓疾患集中治療室の普及、心臓手術の進歩により早期離床・早期退院が可能となっている一方で、冠危険因子を有する患者の継続的な二次予防・生活習慣は正介入も必要となっている。当院においても心リハ指導士の存在意義は大きくなるものと思われる。加えて、心リハが必要な患者に対しては、心リハ指導士だけでなく、医師や看護師など多くの職種で包括的に治療介入することの重要性を再認識することもできた。今後も、研鑽を積み、本院ならびに地域の患者へと還元できる知識の習得を継続して行なっていきたい。

* 特定非営利活動法人 日本心臓リハビリテーション学会
心臓リハビリテーション指導士 認定【2018年9月1日】